

「糸」そして「見えない光」



日本赤十字社診療放射線技師会
会長 清水文孝

なぜめぐり逢うのかを ～～中略～～

縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いつか誰かを暖めうるかもしれない

なぜ生きてゆくのかを ～～中略～～

縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は ～～中略～～

縦の糸はあなた 横の糸は私 逢うべき糸に出逢えることを 人は仕合わせと呼びます

このフレーズを読み、皆さまはすぐに中島みゆきの「糸」と思うでしょう。巻頭言を記すにあたり、この歌を思い出しました。一昔前というより20年、30年前は、病院長の辞令にて診療放射線技師として採用され、その狭い中で業務に精励していたと思います。その時代は、診療放射線技師というただ一本の糸だったでしょう。そして、部門の仲間と自身とで紡いだ小さな布切れでしかなかったかもしれません。それが、施設間の横のつながりがより深くなり、約10数年前より私を含め会員の皆様が日本赤十字社の社長辞令にて診療放射線技師として業務しています。それを契機に、診療放射線技師という単一の糸から施設の太い縦糸に、県内及びブロック内での横のつながりが深まった太い横糸になり、少し大きめの布に紡がれるようになりました。今では、日本国内95施設が横糸になり、一人一人の診療放射線技師が縦糸になり、大きな布で日本赤十字社の医療事業を覆い、支えているのではないのでしょうか。そして我々は、災害においても診療放射線技師としての役割を担う布になることだと思えます。

それぞれの職種の糸は紡がれ布になり、布は重なりあうことでより堅固に、より暖かく日本赤十字社を覆い、病む人々に一筋の光明を与えられる布になると思えます。日本赤十字社診療放射線技師会は、そんな一翼を担う光り輝く一枚の布であり、航布のごとくマストにはためき、風を目いっぱい受け止めて征で欲しいと思えます。

「見えない光」や「光の点」に魅せられ、「磁場」に吸い寄せられた約40年間、その集大成が間近に迫って来ています。振り返り浮かぶのは日本赤十字社の先達、同期の仲間、後輩、役員仲間、そしてブロック研修会でお会いした会員の皆さまです。それが私自身の大きな財産になっていることは、記すまでもありません。仲間に恵まれた30年、素晴らしき役員仲間いられた10年。それを「仕合わせ」と呼べるものと思っております。会長就任時の大地の揺れに始まった巻頭言は、

卷頭言

「揺れる」、「踊る」、「進む」となり、前進のみの技師会運営をしてきたと自負いたします。そして、今が集大成であり、悔いの無いことは、言うまでもありません。老騎千里を走るがごとく、これからも短い期間ですが一人の会員として、一人の診療放射線技師として、走ることを辞めずにいようと思います。「不動」は性に合わず、「動」のみが根っからの性分です。

仕事をやるなら楽しくやり、給与をいただけるのであれば感謝です。役員についても同様でしょう。任期の決まった役員。嫌々やるより楽しくやろう。倒れるなら前むきに。それが持論の集大成を迎える心意気かもしれません。

日本赤十字社診療放射線技師会という大きく暖かな布は、日本赤十字社の社命を旗頭に日本全国、全世界を覆い尽くして行くことでしょう。そんな活躍の場を広げる後輩の皆さまの活躍を、見聞きできることを夢見て巻頭言とします。